

■ 第1回ティーチングポートフォリオ・ミニワークショップに参加して

ポートフォリオ (portfolio) とは、もともと折靴、書類入れの意味ですが、そこから転じて、様々な分野で使用されている言葉であり、教育の分野では、「学習者が自らの学習活動について振り返り、自らの言葉で記し、様々な根拠資料によってこれらの記述を裏づけた学習実践について厳選された記録」であるラーニングポートフォリオ (LP) に対して、「教員が自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏付けた教育業績についての厳選された記録」をティーチングポートフォリオ (TP) と呼んでいます。TPの導入により、授業の向上と改善、教育活動の正当な評価、優れた指導の共有などの効果が期待されており、今回は簡易版TPの作成について学ぶ第1回佐賀大学鍋島地区ティーチング・ポートフォリオ・ミニワークが1月30日に開催されました。

このミニワークでは①対象の明確化 ②日ごろの活動の振り返り ③方法から理念へ ④より深い自己省察 ⑤エビデンスの発掘 ⑥エビデンスの確認・再発掘 という過程で、A3のシートに思いつくことを書き込んだ付箋を貼ったり、2人組でお互いに質疑をしながらそれを振り返りつつ、自らの教育の理念や方法、期待する成果などについて考えを整理していくという方法で進行していきました。この、お互いがメンターとなり質問に答えつつ振り返るという方法により、初めは漠然としていた自分の教育理念や活動、期待する成果が次第に明確になっていきます。最後にティーチング・ポートフォリオシステムにログインして簡易版TPシートを作成し、終了しました。短時間ですが、非常に充実したミニワークショップでした。(吉田和代)

■ 24年度 杉森賞(教育部門) 副島先生インタビュー

24年度杉森賞教育部門で表彰された分子生命科学講座の副島先生に学生教育について、日頃考えていらっしゃるということについてお話を伺いました。

なぜ選ばれたかはよくわからないが、6年生のアンケートで思い出してもらったことは嬉しい。教育にかける時間は負担になるが、やるからにはきちんと行いたい。今は1年の後期に細胞生物IVで、分子生物学の講義をしている。その中で、染色体異常や癌の話が出てくる。臨床系の講義がない1年には、初めて習う病気の話としてインパクトがあるかもしれない。

講義は、小講堂で行うようにしている。サブスクリーンに、スライドを提示し、正面の黒板に板書することができるからである。見ながら、書きながらという講義は、学習効果があると思う。出席は取っていないが、試験は厳し

くしている。細胞生物IVは難関で、留年もある。学生には、理解するためには、出席が必要と言っており、自主的な出席を望んでいる。試験が済むと、たくさんの学生が結果を聞きにくるので、対応は大変だ。

勉強が不十分な学生が増えているとも感じる。学生の将来に望むことは、リサーチマインドを持った地域の医者になって欲しいということだ。基礎研究者も歓迎するが、臨床の仕事の中でも、何事にも常に疑問を持ち、解決する努力を求める。研究でも臨床でも、困難を乗り越えた時の、達成感を味わって欲しい。(市場正良)

■ 24年度 医学科6年生が選んだ教員ベスト10 松島先生インタビュー

医学科6年生が選んだ教員ベスト10で、医学科臨床実習分野のベスト教員に選ばれた、脳神経外科の松島俊夫教授に、臨床実習教育についてお話を聞かせてもらいました。

「医学生には自分で勉強していく能力を身につけて欲しい。そこで、実習中に、将来どんな医師になりたいか、を考えさせるようにしている。また、医学部の授業だけでは教えることの難しい、患者への優しさや、英語力を身につけることの重要性についても説明している。漠然と見て、漠然と生きるのではなく、いつまでに、何を修得すべきか、考えながら生活し、物事をちゃんと見られるようになって欲しい。」と言われました。このような、先生の熱意が、学生に伝わっているのだと感じました。佐賀大学医学部では、開学以来、「自己学習・自己評価」を強調して来ましたが、まさに、その自己学習を促すために適切な動機付けを下さっているのだと、感じました。それ以外に、「自分が手術をしている時は、ずっと解剖の説明を口に出して説明しているのだから、モニターを見ていてわかりやすい、と言われる。」という話も聞くことができました。短いインタビューでしたが、以上のことを笑顔で話され、教育者としての熱意を、私も分けてもらえたと思います。

(江村正)

教育広報部会

小田康友、市場正良、吉田和代、江村正、
幸松美智子、本間治
ご意見をお待ちしています (oday@cc.saga-u.ac.jp)

